



自閉症教育実践のスタートに活用して下さい！

—今の充実と明日への展望— —より確かな指導の追求—

研究の趣旨と目的

養護学校等では、障害のある幼児児童生徒個々のニーズに応じた教育的支援が行われています。近年、これらの学校に在籍する自閉症を併せ有する幼児児童生徒の割合が増加傾向にあります。このため、自閉症を併せ有する幼児児童生徒に対するよりよい教育的支援をするために、自閉症の特性に応じた指導内容や指導法の開発、学校・学級環境の整備が重要な課題となっています。本研究では、これまでの国内外の自閉症教育に関する研究成果を整理し、教育的支援に役立つガイドブックを作成するなど、指導内容、指導方法、環境整備の在り方について研究を進めました。

研究の成果

○研究期間（3年）に、3冊の研究成果をまとめ刊行しました。

*ガイドブックは1万部、ケースブックは5000部に近づいており、“自閉症教育のバイブル”と呼ばれています。



「自閉症教育実践ガイドブック—今の充実と明日への展望—」

平成15年度研究成果
研究所がこれまで行ってきた研究や国内の学術雑誌等に掲載された研究論文などの新しい知見を整理し、この作業を通してこれまでの研究を可能な限り総括しながら、日々の自閉症教育の実践に役立つガイドブックとして作成しました。

「自閉症教育実践ケースブック—より確かな指導の追求—」

平成16年度研究成果
自閉症教育の指針として刊行した自閉症ガイドブックを補完する資料として、作成しました。研究協力者との研究協議から浮かび上がった三点の喫緊の課題、研究協力校の19の実践事例、平成16年8月に全国の盲・聾・養護学校を対象に実施した自閉症教育のアンケート調査の概要についてまとめました。

プロジェクト研究報告書

平成17年度研究成果

研究協力校を対象に、自閉症の特性に応じた指導内容や指導の形態に関する教育課程調査を実施し、自閉症のある児童生徒の教育課程について整理し、加えて全国3カ所で実施した「NISE 自閉症教育実践セミナー」のワークショップを通して自閉症教育における課題と解決策を整理しました。

○研究成果の普及を図るため、セミナーや研修を行っています。



セミナー及び講習会他

平成17年度研究成果

- ①「NISE 自閉症教育実践セミナー」：全国3カ所で実施し、研究成果の普及と同時に、ワークショップを通じた自閉症教育における課題と解決策の整理を行いました。
- ②「自閉症教育推進指導者研修」：国立特殊教育総合研究所と筑波大学附属久里浜養護学校が共同で企画・実施しました。本講習会は、自閉症教育推進の指導的立場にある者に対する研修として位置付け、基礎的な知識・技能を踏まえ、筑波大学附属久里浜養護学校における「授業の実践演習」など、より高度な内容について、演習、研究協議、講義を行いました。

研究成果により学校教育が変わろうとしています！

<自閉症教育を展開する上で必要なこと>

自閉症は脳機能の障害による発達障害です。不適切な養育環境や対人関係のあつれきなど心理的要因から生じる障害ではありません。まずは、教職員全員がこのことを理解しておくことが出発点になります。また、自閉症の障害特性を理解した上で、こうした個々の特性が絡み合い、環境との相互作用もあってそれぞれの子どもの複雑な状態像が現れていると理解することが重要です。自閉症が治癒することではなく、その特性を生涯有することになります。したがって、自閉症の特性を尊重して、その強いところや苦手なところに合わせて指導内容・方法や教育環境を整えることが、子どもの可能性を最大限に伸ばし、その人らしい自立と社会参加を達成することにつながります。

(自閉症教育実践ケースブッカーより確かな指導の追究—より)

<自閉症教育において学校が備えるべき内容>

特性に対してどう対応するかという学校としての基本方針を定める必要があります。自閉症の子どもに必要な構造が自閉症を伴わない子どもにも有効であるか、あるいは少なくともマイナスの影響を及ぼさないかを検討した上で、学習集団を編成すること、どんな学校行事が適切かつ必要なか、校長先生のお話など聴覚的な情報を同時に視覚的にも表示するなど特性に応じた手段をどのように講じるか、6年間あるいは12年間の長い視野で参加の仕方をどう積み上げていくか、などについて学校全体として共通理解する内容を整理し、学校の基本方針を作ることが重要となります。

また、自閉症の特性に応じた指導の充実を図るためには、関係者が子どもに関する様々な情報及び指導目標、内容、方法に関する判断を共有し、共同的に実践及び評価を行う取組(チームアプローチ)を充実させることが必要不可欠です。

(自閉症教育実践ケースブッカーより確かな指導の追究—より)



<自閉症のある児童生徒の教育課程編成>

我々の研究成果から、個々の障害特性に対応する内容を中心に取り上げ、学習内容の般化の視点から各教科、領域の内容を関連づけて行う領域・教科を合わせた指導が、自閉症の特性に直接的かつ個別に対応する指導として実施しやすいと考えられます。このような指導の形態が有する意義を明確にし、個々の特性に即した指導を確実に行う上で「個人別の課題学習(仮称)」を領域・教科を合わせた指導として教育課程に位置づけることが適切です。(プロジェクト研究報告書より)

<自閉症の学習の仕方と指導の仕方>

個人差はありますが、以下のような特性を理解し、学習の仕方を工夫することが重要です。

- (1) **言語のみより、動作を伴った学習が有効**: 動作を伴った学習を進めると能率が上がります。
- (2) **感覚的な記憶より、機械的な記憶をすることが多い**: 誤学習に気を付ける必要があります。
- (3) **聴覚的な情報処理より視覚的な情報処理が得意**: 最も知られている特性です。個人差には留意が必要です。
- (4) **シングルフォーカス**: 同時に二つ以上の事柄を意識内に捉えることができないことで、一つの限局した部分に意識が集中してしまうことです。しっかり注意が向いたことを確認してから、指示や提案などを行うことが大切です。
- (5) **セントラルコヒーレンス**: 「いろいろな情報をまとめて、全体像をつかむ力」のことで、自閉症の人は、この力が弱い、といわれています。今日一日のスケジュールのがんばるところ、休むところなどを主体的に確認させる必要があります。
- (6) **自律的に行動する**: 自分が何をすればよいか分かり、自ら動くことができるようにするためには、環境を構造化することが必要となります。構造化には、場所の一対一対応などの「物理的構造化」、活動の流れなどの「スケジュールの構造化」、自立課題の課題数をはじめから提示しておくなどの「視覚的構造化」があります。構造化は必要不可欠なものの、形態は常に変化するものです。また、構造化は手段であり目的ではないということを理解し、教育内容の充実を図ることが必要となります。

(自閉症教育実践ケースブッカーより確かな指導の追究—より)

【基とした研究について】

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

- 研究課題名(研究期間)
養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究—知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に—(平成15年度～平成17年度)
- 研究代表者名/問い合わせ先
小塩允護 / oshio@nise.go.jp
齊藤宇開 / ukai@nise.go.jp

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 (National Institute of Special Education; NISE)

〒239-8585 横須賀市野比5-1-1 TEL: 046-839-6890 URL: <http://www.nise.go.jp/>